

「選挙と自我の確立」

椎葉村 山中 惇司

みなさんは日本が好きですか？誇りを持っていますか？そして、日本の未来に希望を抱いていますか？この問いに対して、はっきりと自分の考えを述べられる若者は多くないでしょう。若者の投票率の低さがそれを表しています。

選挙に行かないのはどの政党に投票しても結局は同じだと思っているからでしょうか？自分の1票で戦況は変わらないと思っているからでしょうか？

そんなのは言い訳に過ぎません。結局は自分の考えを持ち合わせておらず、自分には関係ないと安全圏で眺めることしか出来ない若者が増えてきていることが1番の問題です。

せわしなく過ぎていく毎日の繰り返しを生きる中で、ずっとこの日常が続くのだと錯覚し、考えることをやめてしまっているのです。考えなくても特に不便でない世の中になってしまった。このことが、政治に対する無関心を生み出していると私は考えます。

子どもの頃の私たちは情報もお金も限られており、今と比べるととても狭い世界に生きていました。しかし、皆、希望に満ちた輝いた目をしていました。

それは、毎日が新しい世界の連続で、未来に希望を持っていたからです。

今、街中ですれ違う大人達の目は輝いているのでしょうか？黒い眼球がスマホの光ばかりを吸収して、輝き方を忘れてるように私には映ります。

職場と自宅の行き来を繰り返す日々が、私たちから夢とか、希望を奪ってしまいました。

人生は、選択の連続です。今の自分は誰かが作り上げたものではなく、過去の自らが選択した結果今の自分がいます。それはかつて思い描いていた未来とは違うかもしれません。それを今、後悔しても遅いのです。

ですが、今からの人生にはまだ無限大の可能性があり、私たちはそれを選択することができます。

選挙にも同じことが言えます。国の未来のために選択をする。その権利が私たち国民には与えられており、加えて、自分が望む未来に必要な政策を代わりに考え、導いてくれる政治家までいます。

正直、政治家になれたとしても私はなりません。少子高齢化を始め、様々な

問題が露呈する日本の未来を考える日々は悲愴的なものでしょう。

それでも政治家は日本の未来のために議論を重ねています。選挙とは、自分が望む未来のために行動してくれる人を応援する。そんな単純なもので良いと思います。

そこで、被選挙権を20歳まで引き下げてみてはどうだろうかと考えてみました。実際20代で国会議員等になる人はごくわずかです。

仮に20歳まで引き下げたとしても、この数に大きな変化はないかもしれません。しかし、法改正により若い立候補者がメディア等に取り上げられ、その分自分たちと同世代の若者がどのような考えをもっているのかを聞く機会が増えることが期待できます。

そのことは、嫌でも若者の選挙への関心を高めることになり、政治について自分なりの考えを持つようになると思います。若者の有権者が同世代を応援することになれば、今まで何となく投票されていた票や浮動票が若い立候補者に動くことが予想できます。

そうなれば、政治家は若い世代の票を獲得するために、若い世代への政策を打ち出し、結果としてより若者の関心が高まることにはならないでしょうか。

そんなことを考えていたら、春の統一地方選挙から、被選挙権の引き下げが検討されているようです。是非、実現させ、若者の声が世の中に響き渡って欲しいと思います。

引き下げられた後、私たちに求められるのは自己のアイデンティティを確立し、メディアや世論に流されないことです。

被選挙権の引き下げは、関心を持たせるための手段にすぎません。選挙が人気投票にならないために、若い有権者自身の自我の確立が必要なのです。私たち有権者は、各政党のマニフェストを全て理解しているわけではなく、その全てを理解して投票することは難しいことです。

ですから、メディア等が重要政策を比較して有権者に判断を下しやすくしています。知らないだけで、政党毎に共感できる政策はきっとあるはずです。

それでも、私たちが投票出来るのは1票だけです。メディアや世論に流されず、自分なりの1票を投じ、自分という人間がここにいるのだと証明するために、私は考え、行動することをやめません。